

『祈りにもとづく使徒的共同体とは』 あなたはどのような「わが家(共同体)」をつくりませんか

1 グループでの対話 ・発表

始まりの歌 すべての人よ、主をたたえよ、第1回の振り返り、聖書朗読 マタイによる福音書18章10・14節)に続いて、グループでの対話を行いました。

A. 迷い出た1匹の羊は、今の教会共同体では具体的に誰を指していると思えますか。 B. その1匹を群れに連れ戻し、わが家」になるために具体的に何をしたら良いと思えますか。の二つのテーマについてグループに分かれて話し合い、各出席者に配付した用紙に自らの考えを書いて頂きました。

その後、希望者10名を募り発表して頂きました。迷い出た羊については、新受洗者 自分自身、教会や人々につまずいた人、ひとりでいたい人、祈りが必要な人、カルト宗教に引き込まれた人、教会から足が遠のいていた人 自分自身、受洗・改宗直前の人、孤立した人、シングルマザー、

病氣・精神障がい・発達障がいの人、30・40代の人との意見が出されました。

2 英主任司祭のお話

出席者からの発表に続き、英主任司祭から講評がありました。

先日、献堂20周年記念ミサが行われ、2千4百人が参加した。これは一つの共同体経験である。ただ、来られない人をどうするかとの問題はあります。

このミサはミッション2030の目標に沿って行っていることである。共同体を生きる」として『この教会が誰にとってもわが家』であると思えるように、どんな人も迎え入れ、互いに支え合いながら、つながりを大事にしていく。』と掲げられている。ここから今日のテーマである「わが家」がとられたのである。

教会が「わが家」だしたら、一番の前提は、教会には神様が住んでおられるということである。神様がいないければ町内会と変わらないことになる。イエス様

がおられる家を意識していることが重要である。

教会で奉仕する人の中には、忙しすぎて祈りを深める余裕がない人もいるかも知れない。神様がおられるなら、祈りを大切にしなければならぬ。

入門講座のスタッフはいい人が多いので、受講者は洗礼に行き着くが、洗礼を受けた後は続かない人もいます。承認欲求が満たされないのであるか。ある新興宗教は、イグナチオ教会の中でも勧誘しているという。どれ位つながりを求めているかは人それぞれである。

共同体を作るのは、大きな教会では難しい。九州の小さな教会に招かれるときは、共同体全体で歓迎してくれるが、この教会では都会型のおつきりしたつきあいになっている。

ハコものよりも迎え入れるスタッフが大事であり、一人ひとりが迎え入れ、支え合うことが必要である。課題別に集まるのはいいかも知れない。シングルマザー、30・40代の人など。

30・40代の人については一度始めたことがあるが、忙しすぎて集まらない、宣伝が困難等の問題があり、いまでは20・30代の会(遣しるべの会)など)を行っている。

3 参加者の「ご意見

出席者約70名の中から35名より回答用紙を提出頂き、集計いたしました。

迷い出た羊については、教会内で居場所がない、友人ができない等により孤立している人、病氣・高齢・貧困・トラブル等により教会に来られない人、新受洗者等を挙げた方が多くおられました。

また、その一匹を連れ戻すには、声掛け・挨拶による迎え入れ、グループ作り、お茶会、居場所作り、専門家の養成、複数言語のミサ、積極的に連れ戻さず、待つ、祈る、傾聴する等のご意見がありました。

祈りには余裕が必要で、現在は15分取るのも大変である。祈りを深める、活動する、勉強する、など、自分に合ったスタイル、自分に合った友人を見つけてはどうか。

来年度何をやっていけばよいかは各人で考えて頂き

※次回のお知らせ

9月1日(日)午後1〜3時、ヨセフホール。テーマは『祈りにもとづく使徒的共同体とは』

孤立からつながりへ

です。

詳細は、チラシ、ポスター、教会報マスを参照下さい。

ミッション2030 共同体を生きるグループ